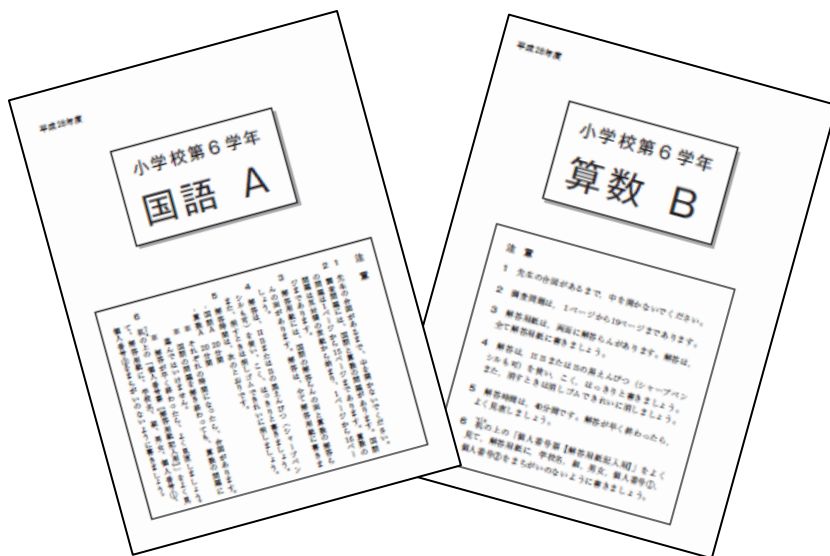


授業改善サポートブック 小学校版

平成28年度全国学力・学習状況調査結果から



【小学校】	国語 A		国語 B		算数 A		算数 B	
	平均正答率 (%)	全国比較	平均正答率 (%)	全国比較	平均正答率 (%)	全国比較	平均正答率 (%)	全国比較
浜松市	78.1	+5.2	59.2	+1.4	77.7	+0.1	48.0	+0.8
静岡県	76.5	+3.6	58.9	+1.1	78.5	+0.9	47.4	+0.2
全国	72.9		57.8		77.6		47.2	
自校								

平成28年度全国学力・学習状況調査における浜松市の小学校6年生の結果は上の表の通りでした。授業改善に取り組んだ成果として、国語Aは全国平均を大きく上回り、その他の教科においても概ね良好な結果となりました。

この報告書は、調査結果から見てきた浜松市の子供の学力傾向や学習への取組状況と課題、また、それに対して各学校で取り組んでほしいことや授業改善のアイディアについて、以下の項目ごとにまとめてあります。

- H25～H28年度の経年変化と分析
- 質問紙から見える傾向と改善の視点
- 国語・算数の傾向と授業改善の視点

浜松市の授業改善の様子

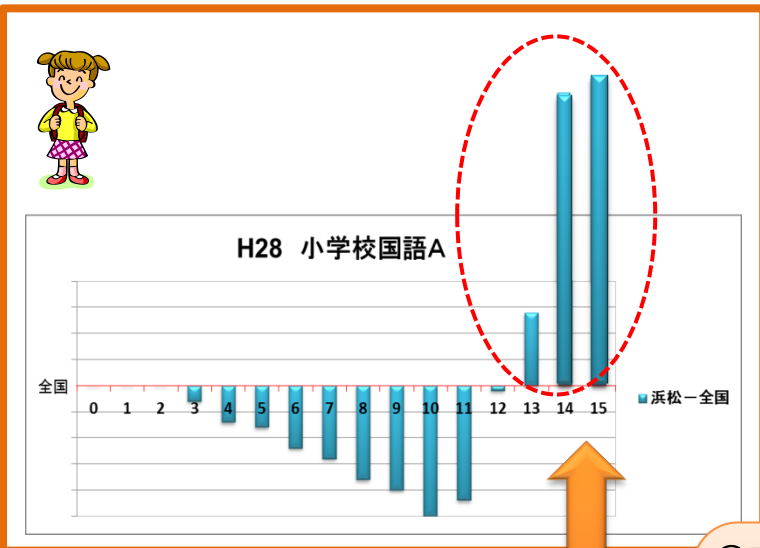
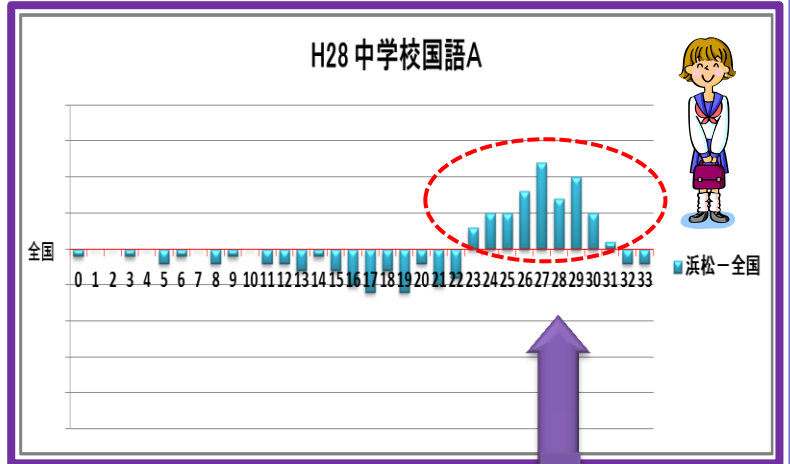
教科及び質問紙の調査結果の経年比較から、本市の各学校では、課題を踏まえた授業改善の取組を意識的に行っていることが見えてきました。下のグラフは、特に国語Aの調査結果から分析したものです。

平成 25 年度と平成 28 年度の比較から（小中国語 A）

浜松市では、授業の始めにめあてやねらいを示したり、付きたい力を明確にした活動を取り入れたりすることで、多くの子供が見通しを持って学習に取り組んでいます。

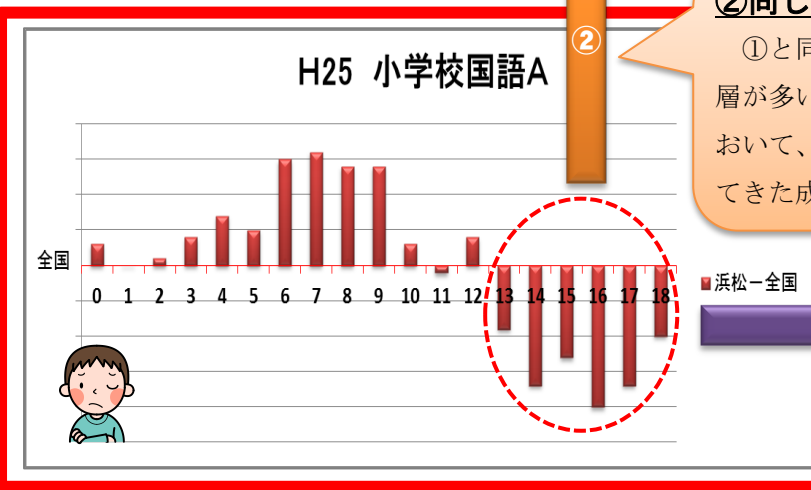
国語科においては、全国学力・学習状況調査から、毎年明らかになった課題を中心に、授業改善が進んでいることが分かりました。

学年や校種を問わず、先生方が継続して授業改善に取り組んできた成果は、正答数分布にも表れています。



①同じ子供で比較した場合

子供の本来持っている能力が結果に表れるのであれば、「H25 小学校国語A」と同様の分布になるはずですが、正答数分布では下位層が減少し、上位層が増加しました。これは、小中学校両方で授業改善が進んでいる成果と考えることができます。



②同じ学年（小6）で比較した場合

①と同じく、下位層の分布が少なく上位層が多い分布となっています。各小学校において、授業改善の取組が継続して行われてきた成果と考えられます。

※正答数分布における

浜松市と全国の差グラフ

横軸：全問題数における正答数

縦軸：浜松市と全国の正答数ごとの割合の差

子供の主体的な学びを生み出す授業づくり

質問紙

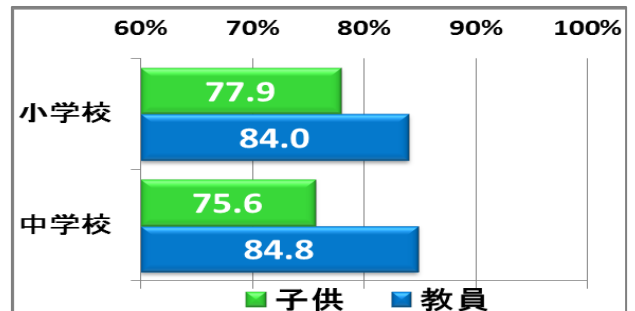
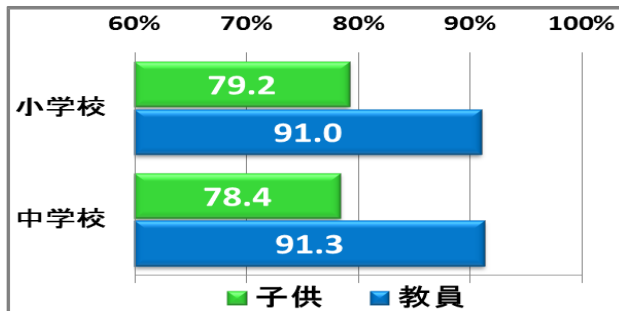
授業で子供の主体的な学びを引き出すためには、教員が子供に課題を自分ごととして捉えさせたり、子供が見通しを持って学び続けることができる学習過程を工夫したりする必要があります。

Q (子供) 授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか。

Q (子供) 授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。

(教員) 児童生徒は、自らが設定する課題や教員から設定される課題を理解して授業に取り組むことができていると思いますか。

(教員) 授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。



※子供は児童生徒質問紙、教員は学校質問紙による数値を表す。
※グラフは、4段階の評価のうち、肯定的な回答をした割合を表す。

浜松市の小中学校では、児童生徒が、教員から示された課題を理解して授業に取り組んだり、授業において自分たちで課題を設定したりする力が十分ついているとは言えません。また、課題解決の道すじを児童生徒自らが考えて、自分から取り組むような主体的な学びも、まだ十分とは言えません。

Check

改善に向けての視点

付けたい力を明確にして、単元・題材を構想していますか？

単元・題材を構想する前に、必ず学習指導要領を読み、その教科・領域等で付けたい力を明らかにしましょう。

子供の実態をしっかりとつかんでいますか？

本単元・題材の学習にかかわる子供の実態を正確につかみましょう。毎時間の子供の表れも丁寧に見取り、一人一人に応じた適切な支援や手立てを講じていきましょう。

学ぶ必要感を持つ課題が設定されていますか？

子供の興味関心や問題意識を生かしたり、課題を子供自身の力で解決させたりする等、子供に学びを任せる部分を意図的につくりましょう。

見通しをもった学びにつながる振り返りをさせていますか？

主体的な学びには、学んだ実感のある振り返りが必要です。振り返りカードや自己評価カードが、子供が「今日学んだことはこれだ！」と、実感のもてるものになっているか、見直してみましょう。

Action

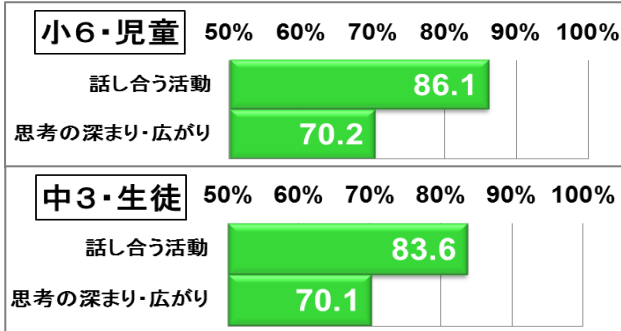
改善しよう

対話的で深い学びにつながる授業づくり

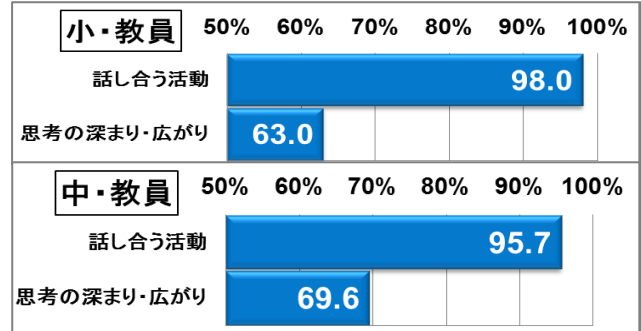
話し合い活動の充実は、対話的で深い学びにつながります。授業で子供が思考の深まりや広がりを実感するためには、目的や方法を明確にして話し合うことが大切です。教材研究の際、子供の表れや思考の流れを想定し、深まりや広がりを手立ての工夫を考えておく必要があります。

質問紙

- Q** (子供) 授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。
(子供) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



- Q** (教員) 学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか。
(教員) 児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



※子供は児童質問紙、教員は学校質問紙による数値を表す。
※グラフは、4段階の評価のうち、肯定的な回答をした割合を表す。

浜松市では、授業の中で子供たちが話し合う活動が多く行われています。一方で、話し合う活動を通して、子供は思考の深まりや広がりを実感できず、教員も取組の成果を実感できていないという課題が見られます。話し合いが学びにつながっていないと言えます。

Check

改善に向けての視点

教科の特性に応じた学びを意識していますか？

各教科・領域等の学習においては、子供たちが様々な知識や思考力等を身に付けていく過程の中で、「どのような視点で物事を捉え、どのように思考していくのか」という、物事を捉える視点や思考の枠組みも鍛えられていきます。各教科・領域等の見方や考え方を働かせた学びを意識しましょう。

「思考が深まる」「思考が広がる」とは、どういうことでしょうか？

思考が深まったり広がったりした子供は、自分の考えを再構築したり、他者から得た考えの価値に気付いたり、新たな疑問や意欲をもったりします。教員は、学びの中で表れる子供の姿をいくつか思い描き、どの子供にとっても思考が深まり広がる手立てを講じていきましょう。

話し合う目的や方法は明確になっていますか？

思考の深まりや広がりにつながるように、話し合う目的を設定して子供にきちんと伝えましょう。目的により、人数や形態を変える等、思考させる方法は様々です。

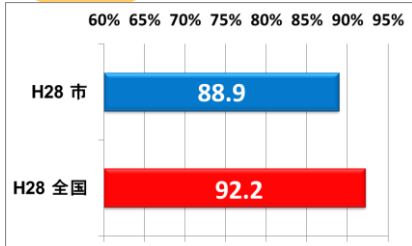
子供が他者と「言いたい」「聞きたい」「一緒にやりたい」と思う課題を設定していますか？

子供が、友達や教員、学習対象、地域の人等と主体的にかかわりたいと思う必然性のある課題を設定しましょう。また、交流によって得た学びをきちんと振り返ることで、子供は交流することに価値を見いだします。

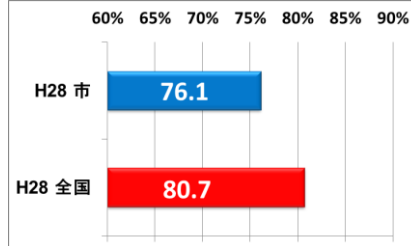
Action 改善しよう

質問紙調査から見てきたこと

Q 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)



Q 国語の授業の内容はよく分かりますか。(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)



「国語の授業で学習したことが将来役に立つ」と感じている子供は約9割だが、「国語の授業の内容がよく分かる」という子供は8割を切っている。また、全国に比べて、国語の学習に対する必要感や理解が低い。

付けた力を子供たちが存分に活用できる場を設定し、「できた」「分かった」「学んだことが役立った」と実感できる授業づくりに取り組む必要がある。

子供が「できた」「分かった」と実感できるようになるためには、子供が目的意識や相手意識をもって授業に臨むことが大切です。そのために、教師には付けた力をきちんと押さえることはもちろん、子供が目的意識や相手意識をもてる課題や言語活動を設定していくことが求められます。

「付けた力を明確にし、「できた」「分かった」と実感できる授業」

良好だと考えられること

漢字の読み書きやローマ字ができる。

漢字の問題の正答率は、6問中5問が8割以上の正答率であった。ローマ字についても全国や県の正答率を大きく上回った。特に促音の表記について良好な結果が見られた。

asatte

あさって



目的や意図に応じて、書く事柄を整理することができる。

委員会の紹介のパンフレットを作るために、追加の取材をした理由を考え、書く事柄を整理することができた。

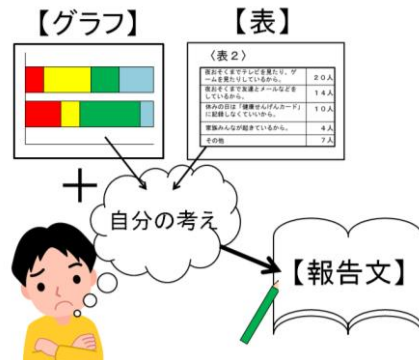
文章や資料を短い時間で読み、あきらめずに解答を導き出そうとしている。

昨年度に引き続き、無回答率が低かった。特に活用する問題では、最後まであきらめずに自分の考えを書こうとする意識が見られた。

課題だと考えられること

目的や意図に応じて、情報を的確に活用して自分の考えを書くことに課題がある。

グラフや表から読み取ったことを基に自分の考えを書いたり、二つの資料を関係付けた上で、更に自分の考えを加えて報告文を書いたりすることができなかった。 →【授業改善例1へ】



登場人物の人物像について、複数の叙述を基に関係付けて捉えることに課題がある。

「おばあさんの人物像」を説明するための根拠となる表現を【物語の一部】から適切に捉えることができなかった。 →【授業改善例2へ】

授業改善例 1

目的や意図に応じて 情報を的確に活用する授業

指導のポイント

- ①集めた資料から、目的や意図に応じて活用できる情報を整理させる。
- ②整理した情報を関係付け、自分の伝えたいことを支えるものとなっているか確かめさせる。

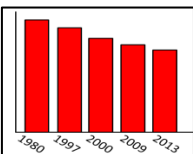
指導例 5年「くらしやすい社会をつくるために」

「くらしやすい社会をつくるために」をテーマに、自分の考えを説得力のある意見文にするための情報を選ばせる。



自分が伝えたい「ごみの減量とリサイクルの大切さ」について資料を集めたけれど、どれを使えば一番が伝わるかな。

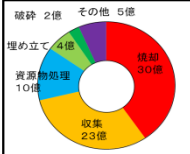
【資料1】
ごみの量の変化



【資料2】
ごみ処理の歴史

1980	燃えるごみと燃えないごみを分けるようになった。
1997	資源物を分けるようになった。
2000	プラスチック容器を回収するようになった。
2009	古紙類・小型家電の回収が始まった。
2013	家庭ごみの出し方が統一された。

【資料3】
ごみの処理にかかったお金



資料から読み取った情報の中に、自分の伝えたいことを支える情報はあかな。整理してみよう。 【指導のポイント①】



【資料2】の「ごみ処理の歴史」を見るとごみや資源物の分別やリサイクルが始まっているのが分かるよ。これを使えば「リサイクルの大切さ」が伝えられそうだな。



【資料1】の「ごみの量の変化」のグラフを見ると、ごみの分別が始まった1980年からごみが減ってきていることが分かるね。資源物の回収やリサイクルとごみの減量は関係があるのかもしれないね。



そうだね。複数の資料を関係付けると、自分の伝えたいことに説得力が出るね。 【指導のポイント②】



なるほど。【資料1】と【資料2】から読み取ったことを合わせて考えると、以前はごみになっていたものが、今は資源として回収されたり、リサイクルされたりすることでごみが減っていると言えそうだ。

授業改善例 2

登場人物の人物像を 複数の叙述を基に捉える授業

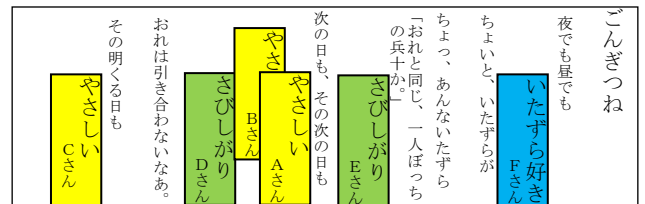
指導のポイント

自分と同じ人物像、異なる人物像を考えた友達と交流することで、複数の叙述を関係付けて人物像を捉えさせる。

指導例 「ごんはどんなきつねか考えよう」

光村4年 下 「ごんぎつね」 P8～

読み取った人物像を、全文掲示に付箋紙を貼って整理する。交流を通して複数の叙述を関係付け、人物像の見方を深めさせる。



今日は、「ごん」の人物像をはっきりさせるために、たくさんの友達と交流しましょう。はじめに同じ人物像を考えた友達と交流しよう。



「次の日も、その次の日も」というところで、何度もくりを置きに行ったからやさしいきつねだと思うよ。

わたしも一緒のところだよ。くりだけではなく松たけも置いているよ。

Cさんは同じ人物像を違う表現から見つけているよ。Dさんは同じ表現から違う人物像を考えているよ。



「その明るく日」というところから、「引き合わないなあ。」と思っけていてもくりを置きに行ったから、「ごん」は本当に優しいと思ったよ。



自分が思っている以上に、「ごん」は兵十のことを思いやる優しいきつねなのかも。でも、Dさんの「さびしがり」という意見はよく分からないな。なぜ「さびしがり」だと思ったの。



ぼくは、「ごん」は一人ぼっちで寂しいから、毎日兵十のところに通ったと思う。そこから「ごん」は「さびしがり」と考えたんだ。



そうか。同じ表現や人物像でもいろいろな捉え方ができるな。

自分と違う人物像を考えた友達と交流することで、自分では気付かなかった人物像をたくさん見つけて、自分の考えを広げてみよう。



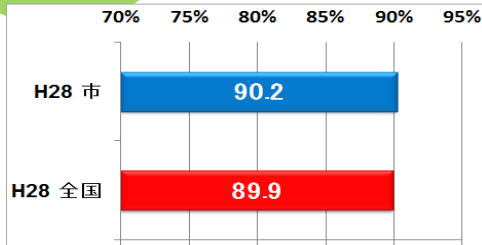
(中略)



「ごん」は優しいだけではないね。交流を通して、「ごん」のいたずら好きなどところやさびしがりなところも分かったよ。一つの表現だけでなくいくつもの表現から考えると、人物像がよりはっきりするね。

質問紙調査から見てきたこと

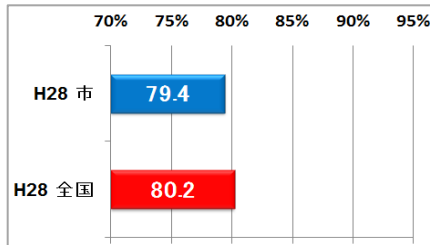
Q 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)



「算数の授業で学習したことが将来役に立つ」と感じている子供は約9割だが「授業の内容がよく分かる」という子供は約8割で、10ポイントの差がある。

子供は「何が分かり、何が分かっていないのか」を教員がきちんと見取り、課題解決に向けて適切な支援を行うことで、「算数の学習は有用である」という子供の思いを理解につなげていく必要がある。

Q 算数の授業の内容は、よく分かりますか。(当てはまる・どちらかといえば当てはまる)



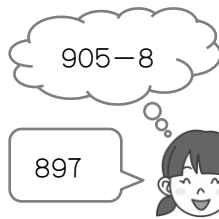
「できた」「分かった」という実感が確かなものとなるように、子供が自分の力で課題を解決していく機会を増やしましょう。

**自分たちの力で解決することで
理解を深める授業づくりを**

良好だと考えられること

基本的な計算力が身に付いている。

繰り返し下がりのある減法や小数の加法の計算などの正答率が高い結果であった。



示された条件を基に、他の条件について検討し、同じきまりが成り立つかを調べることができる。

きまり



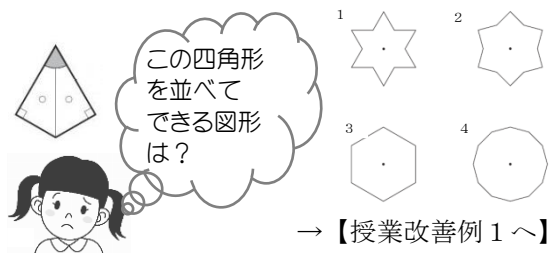
1 辺が7 cmの正方形の面積は49 cm²。この正方形の縦の長さを1 cm短くすると6 cmなり、横の長さを1 cm長くすると8 cmとなる。このときできた長方形の面積は48 cm²となり、面積はもとの正方形より1 cm²小さくなる。

1 辺が9 cmの正方形でも上のきまりが成り立つと判断し、縦と横の長さを1 cmずつ変えた時の辺の長さや面積を求めることができた。

課題だと考えられること

図形の構成要素に着目し、図形について理解することに課題がある。

示された図形を使い並べてできる図形を選ぶ問題で「2」を選ぶ傾向がある。



数量の関係を正しく捉え、図に表すことに課題がある。

百分率を表す場面において、割合と基準量、比較量の関係を正しく理解していなかったために、誤答となっている。

バスに乗っている人数は60人で、定員の20%分多い。「ア」と「イ」に入る数を選択肢から選ぶ。



→ 【授業改善例 2 へ】

授業改善例 1

図形の構成要素に着目し、 図形について理解を深める授業

指導のポイント

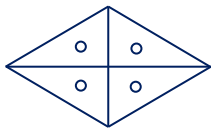
- ①図形の特徴を理解できるように、具体物を用いた活動を重視する。
- ②構成要素に着目し、構成した図形について、構成できた根拠を子供が説明する活動を設定する。

指導例 第5学年「正多角形と円」

1つの点に三角定規の同じ角を集めると、どんな図形ができるでしょう。また、なぜ敷き詰められるのでしょうか。



直角を集めてみよう。 指導のポイント①



ひし形になったよ。



4枚で、ぴったり敷き詰められるんだ。



なぜ敷き詰められたのか、説明しよう。 指導のポイント②




中心には直角が4つで
 $90 \times 4 = 360$ 。
だから、ちょうど一周になるよ。



他の角でも、一つの点に集められるかな。
例えば 30° はどうかな。
また、どんな図形になりそうかな。
指導のポイント②



一周 360° のところに 30° を集めると
すると $360 \div 30 = 12$ だから三角定規12枚で、ちょうど一周になるはず。
こんな形  になるのかな。



では、実際にやってみよう。 指導のポイント①



あれ。正六角形ができたよ。
実際にやってみるとよく分かるね。
でも、予想と違ったのはなぜかな。

授業改善例 2

数量の関係を正しく捉え、 図や式に表す授業

指導のポイント

- ①具体的な場面を取り上げ、それはどのような状況であるのかを話し合う活動を設定する。
- ②図や式に適切に表すことができているかについて、子供が検討する活動を設定する。

指導例 第5学年「割合」

家族でアミューズメントパークへ行く日が、やってきました。東京まで新幹線に乗ります。新幹線の指定席の乗車人数は、定員の90%でした。自由席の乗車人数は、定員の120%でした。



左の様子は、指定席と自由席、どちらの様子でしょうか。
指導のポイント①



混んでいるから自由席だと思うけど、理由は説明できないな。



自由席の120%って、「空いている席がなくて立っている人がいる」ということだね。



自由席の定員は815人です。自由席の定員と乗車人数を図に表して話し合ってみよう。
指導のポイント②



自由席の定員は815人だから、815人で、100%になるよね。



乗車人数の割合は、定員の120%だから、100%を越えて右側まで伸びるね。図からも、定員の815人より乗車人数は多いことが分かるね。